

平成26年度 中学校30人規模学級の実施状況について

義務教育課

1 実施状況について(市町村立学校)

No.	項 目		校数等	
(1)	中学校の総数(分校3含む)		189	
(2)	該当校数		中1	78 41.3%
			中2	73 38.6%
			中3	73 38.6%
(3)	実施校数		中1	73 93.6%
			中2	71 97.3%
			中3	72 98.6%
(4)	(3)のうち、専科教員分等の加配数		100	
(5)	該当するが導入を選択しない校数		中1	5 2.6%
			中2	2 2.7%
			中3	1 1.4%
	理由	① 教室不足で対応できない	中1	1
			中2	1
			中3	1
理由	② 校内事情(生徒数不安定など)	中1	4	
		中2	1	
		中3	1	

(25年度実施率 1年90.1% 2年95.9% 3年89.6%)

2 実施校

(1) 1学年

東信	小諸東中、芦原中、浅間中、臼田中、南牧中、御代田中、上田市立第一中、上田市立第三中、上田市立第四中、塩田中、丸子北中、東御市立東部中、真田中、青木中
南信	岡谷東部中、諏訪西中、茅野市立北部中、茅野市立東部中、下諏訪社中、伊那中、伊那市立東部中、赤穂中、箕輪中、飯島中、飯田東中、旭ヶ丘中、緑ヶ丘中、松川町松川中、阿智中、下條中
中信	清水中、旭町中、信明中、松島中、開成中、山辺中、女鳥羽中、鉢盛中、梓川中、塩尻中、丘中、広陵中、波田中、豊科北中、穂高西中、三郷中、堀金中、明科中、白馬中
北信	常盤中、相森中、須坂市立東中、小布施中、高山中、坂城中、戸倉上山田中、埴生中、更埴西中、屋代中、南宮中、中野平中、野沢温泉中、豊田中、柳町中、櫻ヶ岡中、長野市立東部中、三陽中、長野市立北部中、裾花中、篠ノ井西中、川中島中、更北中、広徳中

(2) 2学年(○は1年時30人規模学級を実施)

東信	○小諸東中、○芦原中、○浅間中、野沢中、○南牧中、軽井沢中、○上田市立第一中、上田市立第四中、○上田市立第五中、○上田市立第六中、○塩田中、○東御市立東部中、○青木中、○依田窪南部中
南信	○岡谷東部中、○諏訪南中、○茅野市立北部中、○富士見中、○伊那中、○伊那市立東部中、○赤穂中、辰野中、○箕輪中、○宮田中、○旭ヶ丘中、○竜峡中、○松川町立松川中、○高森中、○阿智中
中信	○大桑中、清水中、鎌田中、○旭町中、○信明中、○松島中、○開成中、○菅野中、○女鳥羽中、○梓川中、○丘中、○広陵中、波田中、○穂高東中、○三郷中、○明科中、○高瀬中、○白馬中
北信	○常盤中、○小布施中、○信濃中、○飯綱中、○坂城中、戸倉上山田中、埴生中、○屋代中、○中野平中、○木島平中、○豊田中、○城南中、城北中、○櫻ヶ岡中、○三陽中、○東北中、○長野市立北部中、○裾花中、○篠ノ井東中、○篠ノ井西中、○若穂中、川中島中、○更北中、○広徳中

(3) 3学年(○は2年時30人規模学級を実施)

東信	○芦原中、○中込中、○佐久市立東中、○望月中、○立科中、○上田市立第三中、○上田市立第四中、○上田市立第五中、○上田市立第六中、○塩田中、○東御市立東部中、○青木中
南信	○上諏訪中、○諏訪中、○茅野市立東部中、○下諏訪社中、○伊那市立東部中、○春富中、○赤穂中、○辰野中、○箕輪中、○南箕輪中、○緑ヶ丘中、○鼎中、○松川町立松川中、高森中、○阿智中、○高陵中
中信	○清水中、○信明中、○菅野中、○筑摩野中、明善中、○女鳥羽中、○鉢盛中、○梓川中、○波田中、○塩尻中、○丘中、○筑北中、○豊科北中、○豊科南中、○穂高西中、○三郷中、○堀金中、○明科中、○仁科台中、○高瀬中、○白馬中
北信	○相森中、○墨坂中、○須坂市立東中、○信州新町中、○信濃中、○戸倉上山田中、○更埴西中、○屋代中、○南宮中、○中野平中、○山ノ内中、○木島平中、○櫻ヶ岡中、○長野市立東部中、○三陽中、○長野市立北部中、○犀陵中、○篠ノ井西中、○松代中、○若穂中、○川中島中、○更北中、○広徳中

3 取組内容等について(例)

No.	学校	取組内容等
(1)	東信 浅間中学校	30人規模学級のよさを活かした「4人グループやペアでの教わり合いの学習」の指導方法や教材研究を行い、指導法の改善に取り組む。また、提出ノートへのきめ細かい指導や放課後の学習支援を通しての学習意欲の喚起、基礎学力の定着を図り、家庭学習の習慣化を確立する。
(2)	東信 塩田中学校	きめ細やかな指導が可能になるので、個人差を踏まえた上で基本的な生活習慣の確立を丁寧に行い、落ち着いた学校生活を送れるようにするとともに、「思いやり」「支えあい」のできる学級集団を作る。学習習慣形成に力を入れ、基礎力を高めることで学力向上と学習不適應の生徒を出さない取り組みを行う。
(3)	南信 伊那中学校	生徒がねらいをもち、考え、試行錯誤し、友とかかわりながら学んでいく授業場面の設定により、個々の生徒の学ぶ姿をとらえた指導を志向し、一人ひとりの生徒がより主体的に学べるような課題解決型の授業づくりをいっそう進める。
(4)	南信 阿智中学校	1学級の生徒数は1学年23～24人、2・3学年26～27人になる。個に応じたきめ細やかな指導を行うことで、学習習慣・生活習慣の定着と向上と特別支援が必要な生徒へ十分対応できるようにする。また、生徒数が少ないことから家庭学習ノートを丁寧に見ていく。さらに、個別面談の時間を確保し、生徒の相談の機会をこれまでより多くとる。
(5)	中信 清水中学校	少人数学級の利点を活かし、提出物(日記、提出ノートなど)には、できるだけ細やかなコメントを入れて返却する。また定期テストの後は、答案用紙をもとに各自の学習への取り組みを振り返る時間を設けるとともに、再度問題に取り組ませるなど補充学習を実施する。
(6)	中信 菅野中学校	PDCAサイクルづくり支援事業の結果を基に、教科会で指導の方向を明確にする。少人数を活かし、エンカウンターなどを利用して、対人関係の改善に努める。相談時間を適宜設け、不登校傾向や悩みを抱えている生徒を中心に時間をかけて話をする。
(7)	北信 戸倉上山田中学校	少人数の学級編制のよさを活かして、毎学期行う友達関係やいじめの調査をもとに、学級の人間関係の把握しながら、一人一人が居場所のある学級づくりに努める。また、生徒同士がかかわり合いながら学びあう授業を目指し、より学級に存在感の持てる授業を構築する。
(8)	北信 南宮中学校	少人数の学級の良さを活かして、教科学習における個別指導・支援の時間を確保すること、提出ノートへのアドバイスを充実させる。また、生徒一人ひとりの相談の時間を確保する。集団作りにおいては、人間関係づくりプログラムの実施や学級活動の充実を図る。